

英米文化研究Ⅰ(その2)

英米文化研究Ⅰ(その2)

2単位 2年(後期)

宮崎 隆義・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。

【授業概要】 英文学史

【キーワード】 文学史, 時代背景, 文学事情

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 『英米文化研究Ⅱ(その1)』(0.5), 『英米文化研究Ⅲ(その1)』(0.5), 『英米の社会と文化Ⅱ(その1)』(0.5)

【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、後期は、おおむねロマン主義の復興から現代までを、試験を含め16回の授業で扱う。

【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。

【授業計画】

1. ※履修上の注意を参照。
2. アングロ・サクソン時代
3. 中世時代
4. 文芸復興期(ルネッサンス)
5. 清教主義(ピューリタニズム)の時代
6. 古典主義の時代
7. 古典主義の衰退と小説の勃興
8. ロマン主義の復興
9. ヴィクトリア朝
10. 20世紀の文学

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価としたい。

【再試験】 行う。

【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218392>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部1号館3階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

【備考】 本年度は開講しない。

英米文化研究Ⅰ(その2)

2 units 2nd-year(2nd semester)

Takayoshi Miyazaki · PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。

Outline 英文学史

Keyword 文学史, 時代背景, 文学事情

Fundamental Lecture [先行科目]

Relational Lecture “英米文化研究Ⅱ(その1)”(0.5), “英米文化研究Ⅲ(その1)”(0.5), “英米の社会と文化Ⅱ(その1)”(0.5)

Notice 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、後期は、おおむねロマン主義の復興から現代までを、試験を含め16回の授業で扱う。

Goal 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。

Schedule

1. ※履修上の注意を参照。
2. アングロ・サクソン時代
3. 中世時代
4. 文芸復興期(ルネッサンス)
5. 清教主義(ピューリタニズム)の時代
6. 古典主義の時代
7. 古典主義の衰退と小説の勃興
8. ロマン主義の復興
9. ヴィクトリア朝
10. 20世紀の文学

Evaluation Criteria 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価としたい。

Re-evaluation 行う。

Textbook 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。

Reference 参考資料は授業時に適宜配布する。

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218392>

Contact

⇒ Miyazaki (3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 火曜日 12時~13時)

Note 本年度は開講しない。